

## 望月陸夫\*: タネツケバナ属の一新種

Rikuo MOCHIZUKI: A new species of the genus *Cardamine*

秋田県北秋田郡にある田代岳 (1178 m) はほとんど全域に ブナの原生林が発達していたが、近年では特に南側斜面で伐採が進み、中腹までスギなどの植栽が施こされている。中でも山麓一帯はスギの人工林が多い。この地域には部分的ではあるが、溪流に沿ってミズナラ、カツラ、ホオノキ、サワグルミなどから成る自然植生が残存している。1968年6月にこの溪流沿いの林下において、タネツケバナ属の一種と思われる特異な形状の植物を得た。1969年になって、5月から6月にわたる現地での観察および検討の結果、独立種とみなし報告する。

植物体全体が全く無毛且つ繊細で、地表に接して長い匍匐茎があり、その先端から地上茎を生じる、花茎は少数で高さ 30 cm ほどになり、ほぼ直立するが、無花茎ではあまり伸長しない。葉は茎の中位のものが最大で長い葉柄があり、基部には付属物がない。多くは単葉で、時に不規則に1-2個の小さい不定形の側小葉を生じていることがある。葉身(あるいは頂小葉)はほぼ円形で径 2 cm 内外あり、基部は一般に心形一截形である。縁辺には円頭あるいはやや鈍頭の粗鋸歯がある。以上のような著しい特徴から、邦産同属の既知の種から明らかに区別されるものである。花については本属の他の種とくらべ大異はなく、直径は 8 mm 位である。

またこの植物の特質として無性生殖を行なうことであって、種子は不稔である。すなわち、花後に葉腋より少数の根を生じ次第に傾臥して匍匐茎となり、翌年この匍匐茎の先端から新しい地上茎を生じる。したがって長角はほとんど発達しない。それ故、本植物は雑種起原のものと想定される。さらに植物体が極めてひ弱であることや無花茎が多いことから、また雑種性の傾向がある。全体が無毛であることや根茎の肥厚している様子、葉形などからワサビ属に類縁があるものと思われるが推測の域を出ない。したがって現段階では独立の新種 *Cardamine akitensis* ツルワサビとして扱おうことが妥当と考える。

本研究にあたり便宜を与えられた秋田営林局早口営林署の各位に御礼申し上げる。

***Cardamine akitensis* R. Mochizuki, sp. nov. Fig. 1.**

Herba perennis nemorosa, glabra. Rhizoma longe stoloniforme, usque ad 50 cm longum, apice paulo incrassatum 3-4 mm crassum. Caulis florifer simplex in anthesi erectus vel plus minusque ascendens, gracilis leviter

\* 秋田県立大館鳳鳴高等学校. Ôdate-Hômei High School, Ôdate, Akita Pref.

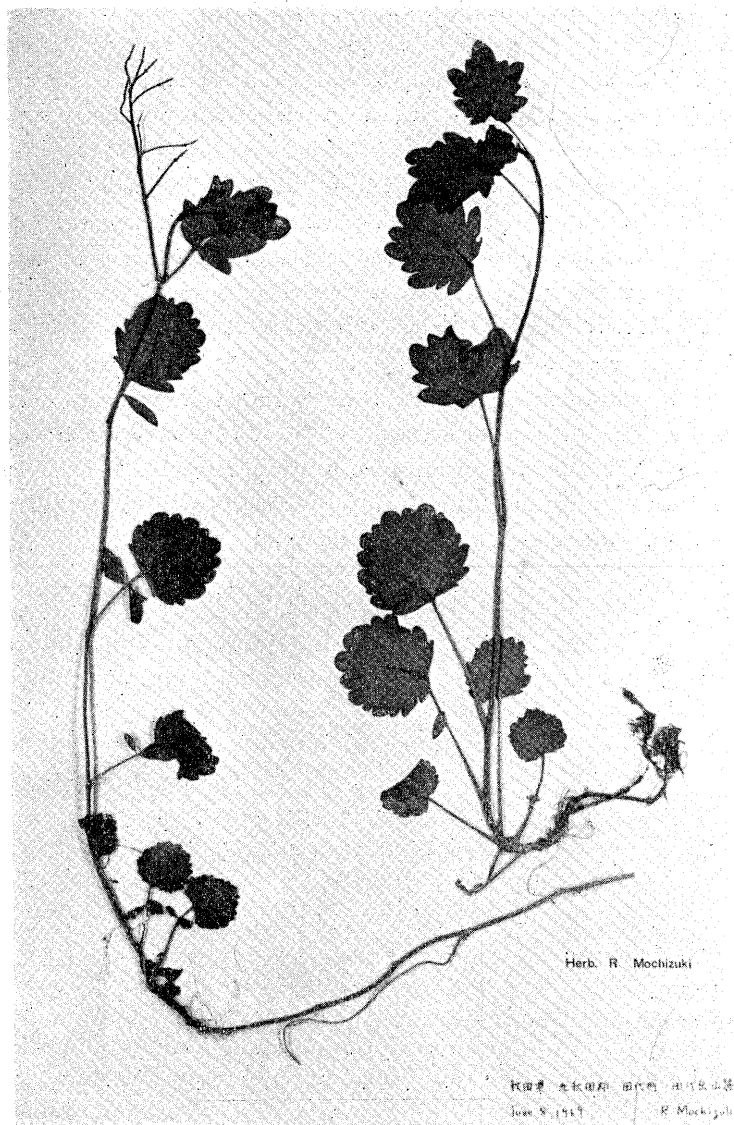


Fig. 1. *Cardamine akitensis* R. Mochizuki.  $\times 2/5$ .

angulatus 20-50 cm altus, caulibus et postea ad foliorum axillas pauciradi-  
cantibus demum repentibus. Folia basalia 1 (-3)-foliolata longe petiolata,

foliolis terminalibus rotundatis 1-2.5 cm longis 1-3 cm latis utrinque obtuse crenatis. Folia caulina inferiora et mediana laxa longe petiolata unifoliolata vel 2-3-foliolata tenuia supra viridia subtus viridescientia, petiolis gracilibus ca. 2-6 (-8) cm longis, foliolis terminalibus petiolulatis rotundatis raro reniformibus 2-4 cm longis 2.5-5 cm latis utrinque 6-8-rotundato-crenatis basi cordatis vel truncatis, foliolis lateralibus minoribus oblongis vel oblique ovatis integris vel saepe utrinque 1-2-crenatis 0.5-2 cm longis 0.1-1.5 cm latis; folia superiora minora breviter petiolata unifoliolata rotundata vel obovata 1-2 cm longa 1.5-2.5 cm lata utrinque lacere 2-4-dentata saepe duplicato-crenata. Racemi terminales rarius axillares vulgo 10-20 (-30)-flori in fructu elongati laxi 5-10 (-20) cm longi. Pedicelli graciles 7-10 mm longi erecto-patentes in fructu elongati 15-20 mm longi. Sepala oblonga ca. 2.5 mm longa 1.2 mm lata albo-marginata. Petala cuneato-obovata alba 6-7 mm longa 3-3.5 mm lata. Stamina 4-5 mm longa, antheris ca. 1 mm longis. Ovaria linearia ca. 3.5 mm longa. Siliquae vix incrassatae 4-5 mm longae ca. 0.7 mm latae. Semina minima sterilia. Fl. V-VI.

Nom. Jap. Tsuru-wasabi (nom. nov.)

Hab. in Japonia: Pref. Akita: monte Tashiro-dake (leg. R. Mochizuki, 15 Jun. 1968; 17 Mai. 1969; 8 Jun. 1969—typus, in Herb. Fac. Sci. Univ. Kanazawa).

\* \* \* \*

付記 本論文の著者も言及しているように、ツルワサビは *Cardamine* × *Wasabia* のように見受けられる。花後の茎が倒伏して上部葉腋から発根、発芽する性質は、秋田県ならミツバタネツケバナ *C. Fauriei* Franch. (= *C. geifolia* Koidz.) を想わせる。また根茎がやゝ肥厚すること、単小葉の葉が多いこと、小葉の形などの諸点はユリワサビを想わせる。種子が不稔であり、外部形態が両者の中間的であることから、ミツバタネツケバナ (エゾワサビ) とユリワサビとの自然雑種と考定することが出来よう。人工交雑をして確認するのが本道であろうが、それをせずとも、ツルワサビの葯の発育度や花粉粒の異常度などを調べることで、自然雑種の可能性を更に支持する結果を得るかもしれない。或はオオバタネツケバナ × ユリワサビかもしれない。(編集委員 水島記)

### 正 誤 (Errata)

頁 (Page)	行 (Line)	誤 (For)	正 (Read)
288	19	正義	正義